

安全と健康

緊急の際の対応方法や子どもの安全・健康管理等につきましては、リーダーの各種研修会で重要項目として学習を重ね、避難誘導や消火活動、心肺蘇生法などの実地訓練を毎年行って、これまで幸い大きな事故を起こさずに運営してきました。

開催期間中はしぶき荘と山ろく荘それぞれに保健室と救護専任リーダーを置き、大事の無いように細心の注意を払っています。万一の時のために、しぶき荘にはAEDを配置済です。

両宿舎から車で3分の場所に東伊那すこやかクリニック、同10分の市内にはドクターヘリ受け入れ施設や救命救急センターを備えた昭和伊南総合病院、さらに同20分の隣接市には地域救急医療センターを擁す県南最大規模の伊那中央病院があり、救急の際の処置に対して手はずを整えています。

食品や調理器具等の衛生管理面では、殺菌消毒、手洗い励行の指導、施策をしてきました。食材や献立の内容につきましても、毎回検討を加えています。食物アレルギーへの対応では、東京都調布市の小学校で起きた給食誤食死亡事故を厳しく受け止め、食事の引き渡し方を工夫したり当該家庭に専用の調査票提出をお願いしたりといった変更を行いました。

また、東日本大震災を機に避難方法を見直し、備蓄食料を増やして、従来豊富な井戸水や薪燃料と合わせ五日間以上は自給できるようにしています。今後も非常時に対するの行動手順や準備しておくべき物資を随時再検討して、危機に強い体制づくりを進めます。

なお、参加者がけがをした際の傷害保険に加えて賠償責任保険に加入しており、参加した子どもの過失により不慮の事故が起きた場合にも適用されるように備えています。



会場から3分の東伊那すこやかクリニック



昭和伊南総合病院には救命救急センター



高度医療体制の整った伊那中央病院



真剣に取り組む心肺蘇生法講習



訓練用消火器による実習



繰り返し行う安全・健康研修

リーダーの研修

子ども会の活動を豊かなものにするためには、さまざまなリーダー研修の積み重ねが欠かせません。特に、自然・仲間体験の減少や、特別な技術を要さない生活が一般化する中、それらの機会を設けることは極めて重要です。

いずれも、貴重な生活の一部を割いて参加するリーダーたちの収穫が少しでも大きくなるように、また、全ての人が学び合える場となるように、会としてもできる限りの体制で質を確保するために準備して開催します。そのため、**自前教材**を作り、**講義への評価**や**毎回の見直し**を行っています。ここで、主な研修の概略を紹介します。

●リーダーを育てる春の学校 [4・5月上旬]

1981年開校の中高校生対象の必修合宿研修。五日間にわたりリーダーとして必要な知識技術をあらゆる面から学ぶ。切磋琢磨した仲間の存在は大きな支えになり、皆が忙しい現代、それ無しにリーダー活動は成り立たないとも言える。

5月の大型連休には「高等部」と銘打って、高校生～社会人を対象にした任意参加の合宿研修を行い、多くの成果を挙げている。

●全体研修会 [2・6・10月]

全リーダー必修。各地区毎に中学生から社会人までが勢揃いして年に三回行う。夏期は全体の基調方針の検討から合意形成を行い、生活支援や安全確保・健康管理まで、必須のさまざまな知識を学ぶ。秋・冬期は、会がめざすことを掘り下げ理解を深めるために、社会事象や人権問題など広く社会に目を向けた課題を取り上げる。

●春・冬の子ども会直前研修会 [3・12月]

参加リーダーを対象に春冬ならではの危険予知や技術等、コース毎に特徴的な事項を学ぶ。

●春期基礎講座 [5月]

子どもとの接し方や安全確保の具体的方法など基礎的な事項を学ぶ。初期中高校生対象。

●実地研修会 [5月中旬]

新人学生のための宿泊研修で、二次選考を兼ねる。宿舎や用具の使用に慣れ、現場の雰囲気を知ってもらう場にもなっている。

●歌・ゲーム講習会 [7月]

レクリエーションに特化した研修。踊りや歌などのオリジナル文化の継承とゲーム指導の質向上をめざす。リーダー自ら、思いきり楽しむ。

●各種学習会・研究会 [随時]

健康安全・野外調理・食品管理・レクリエーションなど、各人の興味に応じて任意で開かれる。



☀伊那谷の気温

信州の山中は標高が大きいとは言え、真夏の日なたでは軽く30℃を超えることがあります。しかし、木陰に入るとたちまち涼しい風が汗を飛ばし、さわやかな肌を返してくれます。夜はしづき荘で22～27℃、明け方は18～23℃くらいですから寒いわけでもなく、実に快適な気温です。山ろく荘ではこれより2～3℃低くなります。なお、中央アルプスの山頂付近では10℃を下回ることもままあり、例年8月中旬まで雪渓を見ることができます。